
犯罪だめです。

木々田 朔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

犯罪だめです。

【Nコード】

N72310

【作者名】

木々田 朔

【あらすじ】

1人の微妙な男が
微妙に死に際へゴウします。

俺は近くの*****で男に刺された。

職場を失い、何の変化もない日々ぼーっとする日に夜中ふらりと散歩すれば

右手に大きな包丁を持った男が前方から歩いてきていた。

最早、怖いものは無いと思った私は男とすれ違い

当たり前の様に背中を刺されたのだ。

とても痛く、血の流れが体の中から伝わってくる。男は私に包丁を預けたまま走り去ってしまった。

夢の中から現実に戻されて人並みの感情が溢れてくる。

痛い。怖い。嫌だこんな所で死にたくない。死ぬわけにはいかない。

俺は鬼だと。だから死なない…とまで妄想が走ったが、目の前のリアルに一瞬で掻き消された。

想像を絶する恐怖が心を逃がすことを許さない。

助けてと叫ぶ勇気など無い。救急車を呼ぶのはプライドが許さない。

今初めて生きてる実感を感じているのだ。誰にも邪魔されたくない。

とりあえず呻きながら体を暗い道に移動させる。

座ってすることが無くなると恐怖ばかりが目に見えかぶ。

空を見ると星と雲が…あらロマンチック。

血の後を追ったのか、いきなり男に声を掛けられた。

若い。高校生から大学生辺りだろう。

誰しも想像できる上等句…大丈夫ですか？

俺は叫ぶ。大丈夫なわけねーだろ！と。

今、救急車を呼びますからと言われ、俺はそれを制した。

死なせてくれ、もう良いんだ。と言った。

人の前だとカッコつけたくなる俺の気持ちを誰か察してくれ。

そして怪しい変態を見るようなお前の視線やめろ。

俺が死ぬのか否か…次回ご期待！

…次回は無い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7231o/>

犯罪だめです。

2010年11月5日06時58分発行